

日本鐵鋼協會記事

第3回理事會 昭和7年6月1日(水)午後5時開會 **出席者** 河村驍君、俵國一君、水谷叔彦君、渡邊三郎君、香村小録君、服部漸君、室井嘉治馬君、

協議事項 1) 入退會者及會員異動に關する件(自5月4日至6月7日) イ、入會者承認(數及氏名別項) ロ、居所不詳多年以上に亘る會員の處分に關する件(除名決定別項) ハ、死亡者(別項)

- 2) 第9回講演大會準備進行に關する件
 イ、大會準備日程決定
 ハ、講演應募者に關する件(前廣告の通り受付)

報告事項

- 1) 大阪市に於て河村會長と齋藤委員長、加藤副委員長と第9回大會に關する打合要項報告
 2) 5月29日開催の日本鑄物協會と帝國鑄造協會との合同記念大會に於て河村會長祝詞を呈したる事
 3) 會計報告
 4) 日本動力協會參與員に河村會長推薦されたり

5) 現在會員總數(6月1日現在)
 名譽會員 維持會員 贊助會員 正會員 准會員 計
 9 27(46口) 18 745 601 1,400
 前期對一 — — 增 1 增 10 增 11
 以上を審議し午後7時30分閉會せり。

第3回編輯委員會 昭和7年5月31日(火)午後5時開會 **出席者** 河村會長、石原善雄君、池田正二君、田中清治君、山田良之助君、廣瀬政次君

協議事項 1、「鐵と鋼」第18年第7號上掲論文及抄録原稿選定の件 選定論文次の如し

- I、製鐵所に於ける A. I. B 式粉鐵燒結に就て 村上敏雄
 II、鑄鐵の黒鉛組織に及ぼす瓦斯及熔解温度の影響 「附」鑄鐵の炭素定量法 田中清治
 III、鍛鍊用マグネシウム輕合金に就て 石田四郎
 ロ、第6回大會準備に關する件 ハ、其他會務に關する件 以上にして午後8時閉會す。

入會者承認濟(自5月4日至6月1日)

居所又は宛名先	職業及勤務先	會員	入會者氏名	紹介者
本郷區駒込上富士前町二九三		正	三菱造船研究所圖書室	河村驍 飯高國一
深川區本村町七一東京ロール製作所	代表社員	"	大谷米太郎君	藤井壽一
福岡縣小倉市木町	淺野小倉製鋼所	准	八阪虎喜君	志村清次郎
神戸市葺合區濱瀨町川崎造船所製鐵工場	燃料係技師	"	蜂谷知十雄君	西山彌太郎
大阪市東成區蒲生町二	大阪工大學生	"	上田善夫君	清水要藏
大阪市北區造幣局官舎(堀川一九六)	工學士 川崎造船所製鐵工場	"	廣瀬英夫君	齋藤大吉
市外澁谷町代官山アパート二二ノ一〇九	戸畑鑄物會社東京工場	"	堀岡米吉君	田代豐
麻布區霞町一八(青山五六一三)	工學士 戸畑鑄物會社東京工場	"	竹田達二君	"
深川區福住町二ノ一九ノ二	戸畑鑄物會社東京工場	"	北野寛慈君	木村庶幾
大阪市東成區北清水町四七三	大阪工大學生	"	鈴木芳郎君	藤井寛
廣島縣比姿都田森村竹森帝國製鐵所		"	平野英雄君	向井哲吉
九州戸畑市明治町戸畑鑄物株式會社戸畑工場	同社	"	原科恭一君	菊田多利男
大阪市天王寺區堀越町六三	川崎造船所製鐵工場	"	萩原一郎君	清水要藏
八幡市黒崎藤田町一八八六ノ一	淺野小倉製鋼所	"	安西照雄君	末兼要
福岡縣小倉市小姓町四ノ一三六	"	"	土田喜四郎君	"
本所區東駒形町四ノ九	工學士	"	中澤楠夫君	桂辨三

居所不明にして除名と決定者

氏名	會員	稱號	前職業及勤務先	前居所又は宛名先
竹内正彦	正	工學士	川崎造船所技師	神戸市中山手通四丁目
船木章二郎	正		船木營業所主	市外大井町四二七二
淺野貞次郎	正		建築材料製造業	大阪市港區三光町四ノ五〇
小長井潔	正		小長井商會主	小樽市花園町 小山方
日根野太作	正		日根野工業所	市外大井町南濱川
栗山安兵衛	正			牛込區若松町一四二
6名				
石塚梧一郎	准	工學士	日本製鋼所	室蘭市輪西工場
中島弘義	"		釜石鐵業所	佐賀縣杵島郡西川登村
山口義雄	"		石川島造船所	小石川區初音町五
古谷徳太郎	"		日本製鋼所	室蘭市茶津町
吉田虎雄	"		大阪鐵道局鷹取工場	大阪市北區東野田町生歳寮
山口文藏	"		海軍機關大尉	鹿兒島縣揖宿郡指宿村
赤穂茂治	"		中越製作所	富山縣三日市町中越製作所
赤禿榮一	"		久保田鐵工所	大阪市港區三條通三ノ五二五
鈴木文衛	"		大澤合金研究所	神田區佐久間町
久保田政一	"		大同電氣製鋼所	廣島縣安佐郡祇園町
小西通太	"		日本昇降株式會社	大阪市東區鶴橋天王寺東桃谷
阿武介三	"		阿武製作所	大阪東成鶴橋木野
王昭章	"		本溪湖煤鐵公司	
陳寬馥	"		"	
曾我部都一	"		電業社大崎工場	市外蒲田町雜色一三八
安岡眞一	"		大同電氣製鋼所	下ノ關市貴船町
薄田重郎	"		九大學生	福岡市九大冶金教室
17名	"			

合計 23 名

死亡者

以上の諸氏にして復活希望の方は至急其旨本會事務所
通知ありたし。

正會員 東京帝國大學教授工學博士宮崎虎一
君の逝去せられたるは洵に痛惜の至なり茲に
謹んで弔意を表す

社團法人日本鐵鋼協會第十七回通常總會並

第八回講演大會晚餐會卓上演說速記

開會場所及時日 東京帝國大學 山上御殿食堂
昭和 7 年 4 月 6 日午後 6 時

出席者 新會長河村驍君、前會長俵國一君

(いろは順 ○は理事 △は評議員 ◎は前會長 ×委員)

△井上匡四郎君、△井上禱之助君、△石川登喜治君、
×石原善雄君、石部功君、石垣豊三君、飯高一郎君、伊
能泰治君、市川直雄君、◎服部漸君、濱住松二郎君、橋
本宇一君、西村秀雄君、西岡多三郎君、堀憲義君、岡村
琢三君、○渡邊三郎君、△桂弁三君、川島信吉君、×田
中清治君、田中太一君、田原友輔君、武田修三君、武智
馨君、高瀬孝次君、高田安雄君、玉置正一君、△永田五
郎君、永澤清君、中田義算君、中村素君、△向井哲吉君
△室井嘉治馬君、氏家正行君、△野田鶴雄君、山岡武君
柳澤七郎君、松木又四郎君、深田辨三君、藤原唯義君、藤
井忠二君、◎香村小録君、寺内錦一君、淺原源七君、荒
牧竹吉君、△齋藤大吉君、佐々川清君、佐藤俊一君、絹
川武良司君、○水谷叔彦君、△三輪時雄君、×三島徳七
君△島岡亮太郎君、◎鹽田泰介君、×鹽澤正一君、志村
繁隆君、尾藤加勢士君、×廣瀬政次君、茂木吉治君、鈴
木益廣君、鈴木信次君、角野尙徳君、須永信二君、以上
多數の出席者ありてデザークースに入るや例に依て五分
間演說次の通りありたり。

昭和 7 年 4 月 6 日(水曜日)午後 7 時 15 分開始

○俵國一君 それでは是から一寸御喋べりを致したいと思ひます、煙草を喫みながら又珈琲を飲みながら暫くの間御話を申し上げます、本日は通常總會及び講演大會を開くに付きまして、例の通り親睦會を開きましたところが何時になく多數の御來會を得まして誠に有難く感謝する次第であります、尙服部賞牌及び賞金を御受領になつた方々、それから各講演者の皆様を御案内いたしましたところが、御多用中にも拘らず萬障繰合せて御出席下さいましたことを厚く御禮を申し上げます、本日の總會に於きまして會長、理事其他の改選がございましたのでありますが、今日迄會長として誠に長い間會員多數の御推薦と御同情に依りまして、會長の職を支障なく務め其任を終へましたことは深く感謝に堪えない次第であります、又私ばかりではなく前任の各役員諸君も皆様の御蔭を以ちまして、先づ先づ滞りなく任期を果しましたことは、是は偏へに皆様の多大なる御後援に依ることでありまして、其事に對しまして厚

く感謝する次第であります、又此度新たに會長になられました河村博士は今日迄本會の爲に種々御苦心せられ又多大の御努力をせられまして、色々會の發展の爲に盡されましたことは皆様と共に厚く感謝して居る次第で重ねて茲に有力なる新會長を得たことを喜ぶのであります、尙本日は會員諸君が久し振りに御上京になられた方が多いのでありますからして、御多用中ではありませうが、どうか今晩は緩つくり御歡談を願ひたいと思ひます、それから本日服部賞牌及び賞金を受領されました方々は、今日總會で申し述べましたやうに、何れも多年の御努力の結果今日の榮譽を得ましたのは誠に御喜びを申し上げて居る次第でありまして、殊に本日は服部博士も御多用中御出席下さいましたことは併せて大變結構なことゝ存ずる次第であります、簡單でありまするが以上を以ちまして皆様に一寸御挨拶を申し上げる次第であります。

○俵國一君 河村さん御話を願います

○河村驍君 それでは御指名に依りまして一寸皆様に簡単に御挨拶を申し上げたいと思ひます、私は過去に於きまして一度本會の會長の席を汚がしましたことがありますので、今回俵會長の任期満了の結果御退任に伴ひまして、後任會長と致しましては、外に適當なる御方も居られることでもありますから、さう云ふ御方に願つて私はどうか御免を蒙りたいと云ふことを色々御願ひ致しましたのでありますが、評議員會に於ける一致した御推薦並に今日の皆様の御選舉に依りまして退つ引きならぬ破目に陥りまして再び就任いたすことになりました次第でございます、併し一度御引受け致しまする以上は、私の一身の事情の許します限り誠心誠意努力いたしまして、職責を盡す積りでありますから、どうか私の足りない所は皆様の御鞭達に依りまして義務を果したいと存じます、何卒御同情と御後援の程を偏に御願申上ます、就ては何か此際新會長と致しましての考を申し述べると云ふことが順序であるかとも考へるのであります、日本鐵鋼協會の今日の状況はどうであるかと申しますると云ふと、此協會の創立以來今年で丁度十八年であります但其間色々な變遷もありましたが、段々と進歩の道程を辿りまして、今日に於きましては凡ての事が整頓して参りまして餘程基礎も確實になつて居るのであります、抑々本會の今日の仕事は三大行事と申しますか、毎年行ふところの三つの主要な

仕事があるのであります、第一は申し上げます迄もなく毎月發行するところの會誌の發行であります、此會誌も近年に至りまして其體裁及び内容を改めまして、彼の世界的に權威のあるところの獨逸のスタール・ウインド・アイゼンに比較いたしましても大なる見劣りはない様な程度に進歩して居ると信ずるのであります、第二の主要な仕事と申しますのは講演大會の開催並に研究部會の催してあります、是も從來春季に於きましては總會を開き講演大會並に研究部會は秋期に於て一回催すと云ふことになつて居りましたが、昨年以來春秋二季に講演大會を開くと云ふ機運に向ひ其何れの場合に於きましても、三十、四十と云ふやうな多數の講演者があると云ふやうな盛況を呈しまして、今日の此講演大會は彼の英吉利のアイオン・エンド・スチール、インスタ、テュートに比較しましても決して遜色がない程度に達して居ると考へるのであります、尙それに附隨して開きますところの研究部會に付きましては其内容に於きまして、今後尙改善進歩を遂げなければならぬ點もあるのでありますけれども、兎に角獨逸なり亞米利加などの色々の研究會の形式を備ふるに至つたのであります、それから第三の主要なる仕事は服部博士資金の運用と云ふことでありまして、是も一昨年資金の取扱規則が制定せられ其運用を計るに至りまして、已に昨年は第一回の受賞者を出だし、又今日は此處に目出度く第二回の受賞者八名を出だしまして、此資金の寄贈者に對しまして相當有意義なる取扱ひが出来るやうになつて居ることゝ考へるのであります、斯う云ふ風に本會の事業が夫々進況に向ひつゝありますことは、是は此處に御列席になつて居ります歴代の會長、役員並に會員御一同の犠牲者の努力に依るところの結晶でありまして、本會の爲に誠に祝賀措く能はざる次第であると考へるのであります、然らば斯う云ふ風な本會の現状に於きまして、今後はどうしたら宜いかと云ふことであります、此社會は活物である始終動いて居るのであります、我々は日進月歩の世の中に生活して居るのでありまして、過去の事或は現状を以ちまして決して満足し油斷してはならないのであります、然らば之を今後如何に致しましたらば宜いかと申しますならば、一方に於きましては本會の傳統的な堅實なる經營方針を基礎と致します事は勿論役員間に於きまして分擔並に協力と云ふことを適當に調整いたし又他方に於きましては、常に工學會に所屬して居りますところの他の十一學會の進歩の狀況を注意し、又外國に於ける日本鐵鋼協會と同種類の學會の進歩の

狀況に常に着目いたしまして、日進月歩の趨勢の遅れないやうにすると云ふことが最も必要でありましてかくして最も圓滑に而も合理的に且つ進歩的に本會の事業を振興させて行くと云ふことより外に途がないのであらうと考へるのであります、是は極めて概括的事でありまして、其細目に至りましては役員間の協議は勿論、會員一般の御方の衆議の結果に依りまして本會の目的に添ふ様今後仕事を取計つて行きたいと考へるのであります就きましては本會の將來に對し御意見のあります點は夫々の機會を以ちまして口頭なり或は書面を以つて御腹藏なくどしどし御申出を願ひたいと考へるのであります我々は其御提案にして本會の目的に添ひ會の發展上有益なりと考へまするに於きましては、經費の許し得る限り緩急を計つて夫々實行に移す事に努むる積りであります、尙此外に二、三申し述べたいこともございますが、餘り長く斯の如き堅苦しきテーブル・スピーチを續けますよりも、是から又皆様面白い御話を伺ふことが出来ると思へますから是だけを以て御挨拶に代へる次第であります(拍手)

○**俄國一君** 甚だ僭越であります、例に依り指名さして頂きます、それで服部賞受領者を代表して中田さんをお願いします。

○**中田義算君** 只今俄會長殿より御指名を蒙りました中田で御座います、本日服部賞を頂き非常な光榮に浴し有り難く存じます、甚だ僭越ながら今日服部賞を頂きました八名を代表いたしまして、會長殿並に幹部の方に、會員諸君に厚く御禮を申上げる次第でございます此處に立ちました主要な用件は之で済んだわけですが此機會を利用すると申しましては甚だ禮を失する次第で恐れ入りますが此場合極めて粗雑な私の考へ乃至希望を一寸述べさせていただきます。

私は高爐と言ふ装置乃至機械を透して鑛石から鐵鋼の第一歩たる銑鐵を造り來つた關係上、日本に於ける鐵の世界が餘り振はない、或は外國の品物に押されると言ふ事實を聞知する毎に、鐵の世界の第一の木戸番たる自分達の力が足りない、責任を盡しておらない、申し譯がないと言つた様な感に打たれるのであります。現在亞米利加では、鐵鑛石が四弗五十仙、コークスが二弗二十五仙、即ち骸炭は鑛石の値段の半分であります、之に反して吾か日本では現今恐らく七、八圓の鑛石に對し、骸炭は殆ど孰れも十圓以上でありませう、ですから米國あたりでは少しは悪い鑛石でも捨てない、之が爲めには燃料は餘分に使つても構はない事になり、反對に日本では燃料の方を節約する事に努める。

所が昨日及今日の各大會に於て先輩諸先生の御話の中にもよくありました様に、今日迄の日本の仕事は殆ど皆な外國の眞似であり、銑鐵を造る仕事も亦ご多分に洩れずと、したならばとりもなほさず骸炭の安い、鑽石の高い國の眞似少くとも其例に甘んじておる事になるのではなからうか。

日本では第一に適當な燃料を得ますのが困難で其値段も貴い、ですからせめて其使用量なりと減ずると言ふ事は、例へば地震學が地震に苦しんでおる日本で非常に發達せし如く、燃料に苦しんでおる日本でこそ、他國よりも一步さきに成功すべき筈のものではなからうか此處に一寸つまらない事を挾まして戴きます、釜石に於きましては以前は骸炭は成る可く大きな者でなければいけないと言ふ風に考へて仕事をやつておりましたが、後になりまして色々と爐況の調査から大きい骸炭は却ていけない、而も柔い骸炭であれば猶更小さく碎いて用るなければいけない、と言ふ事になり、吹けば飛ぶ様な粉はいけないが粒をなす以上は小さくとも差支ないと言ふ見地から、遂に二分目篩上まで用ゐる事になりました、尤も二分から四分の間は粉を附着し易いので水洗し而も使用量は塊骸炭の五%位に止めました、使用開始の當初は可なり氣遣はれましたが、何等支障なく作業を繼續し得ております、此の結果骸炭の値段の分けても高價な釜石にとりましては可なり大きな救濟であります、特に申し上ぐる程のエライ事柄ではありませんが、とにかく昔よいと思つておつた事が今は悪く昔の悪いと斥けた者が今は差支ないと言ふ風に變つた所に、興味があります、ですから吾々が勿論お互に力を借せ合ふ事は必要ですが、夫々進む可き筋道を辿つて調査研究するならば、將來は或は今日要求しておる様な堅い骸炭でなくともよい、或は強ひて骸炭の様な形をした物でなくともよい、少くとも他の形の燃料を混用し得ると言つた様な、結果に到着し得ないとも限りません。

高爐の構造なども先程來諸先生の御話にもあります如く、可なり急激に變つて行く時代ですから、あまり先きの事を考へたり又あまりベグイな丈夫な高爐を造るよりも簡単に手輕な（手輕と言ふ事は小さな高爐と言ふ意味ではない）高爐を造り起業費を輕減せしめる、ソーして時代の進歩に従ひ何時にても打ち壊して改造すると言ふた考へに進みつゝある様です、爐體を構成して居る耐火煉瓦の如きも、今日非常に八釜敷其品質を吟味し或は澤山の金を外國に支拂つて良質の煉瓦を求めたりしておりますが、夫れよりも爐の構造上に工

夫を凝らして、低級煉瓦で而も壁厚なども、もつと薄くして而も長く持續すると言つた方面即ち爐の構造を研究す可きではなからうか。

銑鐵の成分に就て申しますると、以前甚だ困難とせられたる低珪素銑を造ると言ふ事は今日にては何れの製鐵所にて充分に成功しておりますが、銑鐵中の炭素分の調節と言ふ事は現在出來ない事になつておる、珪素が低くても炭素が高ければ平爐に於て色々な困難を伴ひますですから製鐵業を眞に發達せしめ度いと言ふ立前からして、是非共珪素と同じ様に炭素の調節も出來る高爐を造つて見たい、ソーなれば高爐の直湯を其儘平爐に裝入する事が出來て、フオアフリツシュ等の豫備製鍊は省略する事が出來る。

斯様にして先づ高爐の築造費の節約、而も其爐は將來に向て伸縮自在ならしむる如く企て日本の實情に則して燃料の可用範圍の擴大を計ると共に消費量の減少に努むる如くし、用途に應じて炭素の量まで區分し得る様になれば此處に初めて安くして而も良質の銑を得る事になり、製鐵事業の基本が成り立つ事になります。以上の事項は或は甚だ困難で、寧ろ實現不可能かの如くにも見へますけれども、實驗的研査により或程度までは必ず達成し得らるゝ事で、製鐵上數多の不利の條件の許に措かれておる日本でこそ他に率先して是非成功すべき筋合の者なれと信ずる者であります、尤も以上の事柄を實現せしむるには是非共小さな試験高爐が必要で、此試験高爐の出現を餘程前から熱望しており今夕御列席の野田技監俵博士兩先生からも多大の御諒解と御同情を得ておりますが、まだ之が實現の時機に達し得ない事を甚だもどかしく存じおる次第であります、希くば會員諸君からも大なる御聲援を賜はりまして、試験高爐の實現の速ならん様御願ひ致します、甚だ駄辯を弄して失禮致しました（拍手）

○**俄國一君** 今日行ひました服部賞牌及び賞金の寄贈者の服部博士が幸ひ今日御出席をされて居りますから服部博士に御願ひしたいと思ひます。

○**服部漸君** 今回第二回の工學會大會が開催せられます機会に於きまして、日本鐵鋼協會の第十七回通常總會並に第八回講演大會が催されまして、何れも頗る盛會に進行し、尙明日明後日邊りも講演なり又工場見學がありますことは誠に御同慶の至りに堪えないと思ふのであります、尙今日總會に於きまして、俵會長が御退任になり新たに河村會長を迎へるに當りまして一言私から俵會長に向ひまして御禮を申し上げて置きますと同時に、河村新會長に向つて御願ひ申し上げたいと考へる

のであります、過去二箇年の間俵會長の御勞力に依つて、此間色々な事業がございまして、特に不況時代であり彼此困難でありますにも拘らず頗る努力をせられまして、毎月發行せられますところの會誌も其面目並に體裁を年々改められて居るのであります、是は以前に較べますれば非常に盛大になつたと云ふことは先刻河村さんから色々御話がございましたやうに、雜誌の發刊又講演大會を一回より二回にすると云ふやうなことに付きまして頗る御盡力になつたのであります又丁度俵會長の御在任中に此賞牌、賞金のことに就きましても色々努力をせられまして益々我が日本鐵鋼協會の緊要なる仕事は進んで行き、大變發展して行くこと云ふ機運に現在ありますことは、私共會員としまして俵會長の御盡力に對しまして厚く御禮を申上げる次第であります、又河村新會長は既に以前に會長に立たれ、又私も以前は會長を致したのであります、それとても何時も河村君の御努力に依りまして、大過なく私は會長の職を勤めて來たやうな次第であります、それで今度又更に河村會長を煩はしまして、只今御話になつたやうな御方針で以て益々本會の發展を力められると云ふことは本協會の爲に非常に皆様と共に御同慶の至りに堪えない次第であります、何卒何分とも今後益々御努力を御願ひしたいと思ふのであります、それから今度の工學大會がありましたに付きまして、昨日邊りも色々御講演を承るのであります、近時世界の各國に於きましての文化の發展と云ふことに對しましては、工學方面の發展の偉大なる力に依りまして、主として今日の文化が著しく進歩したと云ふことになつて居ります、之を我國に考へて見ましても丁度其通りであるのであります、兩三年前我國に於きまして萬國工業會議を催され、又其後も度々色々な會合がありなど致しまして、此工學會の網羅して居ります十二學會と云ふものが各々夫々の特別なる専門の方向に向ひまして常に研究をし又研究しました事項を實際化すると云ふやうなことに依りまして文化の發展を著しく進めて居ると云ふことは是は、最早誰が考へましても其通りであると思ふのであります、此十二學會の中でも鐵鋼協會の本分といふものは總ての機械なりさう云ふものに對する最も必要なる物資を供給すると云ふことが本分でありまして、それらに就きまして最も高壓高熱に堪える而も物理的化學的に要求いたしますところの必要なる形式を備へたものを拵へて行くこと云ふことに就きましては、此鐵鋼協會の會員諸君の御努力に依りまして、始終新しく進んだ例へ

ば各種のアイオンなりアロイスチールなり其他色々な特性を具へたものが出來まして凡ゆる工業に最も必要な研究をして之を實際化して行くこと云ふことに努力せられつゝあると云ふことは、今日邊り承りました御講演に依りまして大いに其事を感じる次第であります、從ひまして今後我々鐵鋼協會の會員と致しまして各方面に向つて夫々御研究になり發展を計られると云ふことを希望して止まない次第であります、今日の三島博士の御講演なども既にそれらの御努力の發露としまして大いに慶賀に堪えない次第であります、尙又今日賞牌、賞金を受領せられました諸君は豫て夫々長年の間に御研究になり經驗を積まれた結果が今日の御名譽を齎らした次第であります、私は此機會に於きまして皆様に對して厚く今迄の御努力を謝すると共に、今後益々御研究御努力になりまして、此我國の鐵鋼業の爲に大いに盡されむことを切に希望する次第であります、只今も中田君から色々鑛鑪の作業に就きましての御苦心の御話がありましたが、是等の事は我が日本に於きましては、原料即ち鑛石なり或はコークスなりと云ふやうな性質に對しまして、外國とは一種異つた性質を有するものを以て處理して行かうと云ふことに對する苦心は唯單に鑛石と燃料の骸炭があればそれで出來ると云ふやうな極く簡單なものでないこと云ふことが明かに分りますので、それらの點に付まして中田君は非常に苦心をされ鑛石に於て段々御研究御改善になつた結果が今日其勞に酬ひたものとして皆様と共に御喜び申上げる次第であります、私は唯極く古から鐵鋼協會に居ります關係から此機會に於きまして新舊の會長に向つて御禮やら御願ひを申上げ且つ今日賞牌、賞金を受けられた諸君に對しまして御喜びの御挨拶を申上げた次第であります（拍手）

○**俄國一君** まだ外に御話を御願ひしたい方があるやうでございますが、井上子爵が此席に居られますから何か御話を御願ひ致したいと思ひます、井上博士は此度日本鑛業會の新會長となりましたに付きましては、我が鐵鋼協會は日本鑛業會とは切つても切れぬ關係がありますので此際何か願ひしたいのであります。

○**子爵井上匡四郎君** 只今俵前會長から御指名に預かりまして私が此處に諸君の前に立ちまして駄辯を弄することは甚だ筋違ひのやうではあります、又考へて見ますと止むを得ぬこともあるやうな感じも致すのであります、第一に俵君は私の先生でございます、私は俵君から幸ひに俵君の高弟であると呼ばれる光榮を常に持つて居るのであります、俵君からはマインサーベ-

の御教授を受けたのであります、併ながら又幸ひにして私は新會長の河村君を高弟と呼ぶ光榮を持つて居るのであります、河村君には私がマインサーベを御教へしたのであります、又私はマイニングを専門とするのであります、大學を出ます時は矢張りプラスチックの論文を書いて幸ひに大學を出る事が出来たのであります、其後留學いたしましてフライベルヒへ参りましたのであります、今晚此處に御列席の京都大學の齋藤教授が四、五箇月前に其當時私より早く其處に御出でになつて居つたのであります、齋藤教授と一緒にフライベルヒに於きまして、先づ第一にレーデブア先生のアイゼンヒュテンラブラトリウムへ入り、又先生の講義を一緒にずつと聞いたのであります、其昔の事を考へますと此鐵鋼協會とは實に離れられぬ關係があると云ふことを切に自分で感ずるのであります、私がフライベルヒに在學中、レーデブア先生は非常に日本の學生を好いて居りまして、日本の學生に對しまして非常に好意を表して呉れまして、齋藤君と私はレーデブアのラボラトリーに於きまして、其處には普通の學生のラボラトリーがありますが、其ラボラトリーの隣りに先生の小さなラボラトリーがありました、其の中へ我々兩名を特に入れて呉れまして、所謂先生の膝下に於きまして常に指導を受けたのであります、其時に私は今でも忘れないのであります、一番初めに鐵のタイトレーションをやります時にスタンダードソリューションを造るのであります、是は諸君も御承知の通り例の空氣のアブシユルツスの下にこちらから炭酸瓦斯を送つて、ブルーメンしてスタンドレーションドラフトを溶かすのであります、今でも矢張り同じことをやつて居られると思ひます、此の炭酸瓦斯を發生せしむるにはホタシユームカーボネートを使ふ様に書いてあるのであります、丁度其時私は其邊を見ますと、どうしてもホツタシユームカーボネートの瓶が見付からない、ところが直ぐ傍にソジユームカーボネートの瓶がありましたから、どうせ炭酸瓦が出れば同じことだらうと思ひまして其ソジユームカーボネートを使つて例の如く實驗をやつて居つたのであります、さうすると段々こちらの方からカーボネートソリューションの液が入つて行くやうになりますとやゝ暫くすると急に非常な音で以てぱんとな破裂してしまつたのであります、其時は私は非常に驚いたのであります、其結果はテーブルの上は水だらけになつてえらい騒ぎになつてしまつたのです、レーデブア先生は何が一體起つたのだと言つて私の所にやつて來ましたが

此本に書いてある通り實驗をちやんとやつて居たところが此様に破裂をしたのですと申したのであります、どうも私は其時に自分はホツタシユームカーボネートの代品にソジユームカーボネートを使つたから斯う云ふことになつたのだと云ふ本當の事を言ふ勇氣がなくて實は嘘をついたのであります、ところが先生は私の言ふことをすつかり信用しまして、それは面白い自分は今迄屢々やつたが未曾て斯う云ふ現象が起つたことがないと言ふので非常に感心されて私を一向疑はなかつたのであります、私の方は實を申しますと嘘を言つた以上どうもそれが嘘でしたと云ふことを取消することも出来なくなつたので甚だ私は赤面したことを今でも記憶に残つて居るのであります、其後私はフライベルヒを去つてベルリンへ行き、齋藤君はアーヘンに行かれそのフライベルヒを去る時に私は先生に寫眞を送りましたところ先生も私に記念の爲に寫眞を送つて呉れたのであります、其寫眞は今でもちやんと私は持つて居りまして自分の書齋に懸けて毎日レーデブア先生の顔を見て居るのであります、其先生の顔を見る度に始終私は人間は嘘をついてはいかぬと云ふことを其時の記憶を喚起して居るのであります、是は獨逸學者の氣質に對して私は恥かしいことをしたと云ふ苛責の念に今以て堪えないのであります、さう云ふ次第でありまして、先生からは私は鐵のことに付ての教訓を得たよりも寧ろ非常な良い道徳上の教訓を受けたと思ひまして今でも先生を非常に尊敬し常に感謝の意を表して居るのであります、是は獨逸學者の氣質の一端と思ひまして駄辯であります、是だけ申上げて置く次第であります（拍手）

○**侯國一君** それでは次に野田君に何か御願ひ致します

○**野田鶴雄君** 私は只今御紹介を受けました製鐵所の野田でございます、只今井上子爵から非常に私共の教訓になりますことを申されまして一同難有拜聴致しますが、井上君御自身に置かせられても其後決して嘘をおつきにならぬとは存じますが、夫でも随分時々レーデブア先生を想ひ起して居られるのではないかと思ひます（笑聲起る）それはそれと致しまして、今日を受賞された方々に御目にかゝりまして且つ色々な御話を伺つて居りますと、世界の鐵關係の人々の方よりは寧ろ理學者を驚かしたやうな志村博士の御研究、或は明治34以來今日迄約32年間日曜或は病氣以外には終始一貫連日オープンハウスをのぞいて居る松木君のやうな極端から極端に亘つて居ります實地と學術との兩者を兩端に置きまして、其中間の各方面の事柄を御研究になつ

た方々を御選定になつて賞を贈られたと云ふことは、私は心から日本鐵鋼協會及び日本の鐵鋼業の爲に誠に慶賀の至りに堪えない次第と存するのであります、そこで此處に私は折角立たして頂きましたから一つ申上げて皆様の御賛成を得たいと思ひますことは、私は多く英吉利に居りましたので獨逸の方の先生には不幸にして近づきが少ないのでありますけれども、英吉利で現在スペシャル・スチールの方面に於きまして或は世界第一と言はれるかも知れませぬ、サー・ロバート・ハドフィールドと云ふ彈丸、アーモアプレート其他マンガ・スチールであるとか各種の研究と同時に工場經營に於ても偉いマネージャーが居ります、其人が常に申しますことは自分が死ぬ前に今よりも3倍強い鋼を拵へて死にたいと云ふことであります、今の鋼より3倍の強さの鋼にすると云ふことは、詰り今日と同じ位のエロンゲーションをして置てストレングスを今の3倍にするといふのか、或はショックテストに對しても牽引試験に對しても、今の3倍位になる位の鋼を發明するといふのか要するに現在のものより3倍強い鋼を自分の生きて居る間にどうしても造りたいと云ふことを頻りに言つて居るのであります、併し是は何時其様な事が實現しますかまだ多少の期間を要する事と考へます、そこで私は其前に唯強いばかりが能でもあるまいと云ふやうに考へるのであります、此世界中に毎年出ますスクラップの量、是はインゴットの切捨部分其他の返へしスクラップではなく鐵鋼の既製品のスクラップが約2,500萬噸位年々出るだらうと思ふのであります、亞米利加で不景氣になります前迄に使つて居りましたところの、自分の所のスクラップではない所謂購入スクラップは7ヶ年に約1,700萬噸であります、それに返しスクラップが1,700萬噸、合せて3,400萬噸でありました。其既製品の段々悪くなると云ふのは一體何が原因して居るのであるかと申しますと、大部分はそれが錆びていけなくなる、或は又デザインが舊くなるとか、磨滅して悪くなるとか云ふのであつて、其内矢張り錆びるのが一番多いのであります、例へば船でありますとか、色々の築港に使つて居ります鋼材とかレールであると云ふやうなものは磨滅するよりも錆びて悪くなる方が多いのであります、私共製鐵所に居りますと、さう云ふやうな色々の鋼材を製造して、夫が直ちに賣れずに貯藏されて所謂ストックになりますと直ぐ錆びる、其結果値段が下がつて來るのでありますそれで或場合にも見す見す仕方なしにそれを切つてスクラップとして再び銕かしてしまふ様な事があ

ますさう云ふことから考へまして錆びない鋼が世の中に出來ると云ふことが差當り必要な事で今後の鋼、鐵研究者の最も重要な研究問題ではないかと思ふのであります、それでは今日に於てはステンレススチールが出來て居るのではないかと言はれますけれども、是はまだハイクラス・アロイ・スチールでありまして毎日のコンマーシャル用にはならないのであります、先年來私の方でブリツキを造つて居りますが、それは無論錫メツキでありまして25%位錫がつけてあります、ところが悲しいかな、其錫は日本には一寸しか出來ませぬので、總て馬來半島の方面から來て居るのであります、元來ブリツキと云ふものは錆びないやうにする爲に黑板の上を錫でメツキをするのであります、之を現在のステンレス・スチールでやつたら宜いではないかと云ふので大分試驗的にやつて居ります、しかしまだまだ價格にしましても3倍位では出來ない位高くつくのであります、それは御承知の如くクロームを13%ばかり入れる、或はもう少し良いのになりますと、クロームを20%ニッケルを8%と云ふ程度入れます爲に到底まだブリキの領域を侵かすことの出來ない位此錆びない鋼と云ふものは餘り高價に過ぎるのであります。將來世界の鋼、鐵と云ふことに關係しまして最も優秀なる位置を占めるのは何處であるかと申しましたならば、必ずもつと廉く錆びない鋼を造ることを初めてやつた國が世界の第一位に立つのであるといふ事を斷言し得るのであります。先程申し上げましたやうに、極端から極端迄の受賞者を出しますやうな我が鐵鋼協會に於きまして、皆様の御努力に依りまして、遠からず將來に於て世界中を驚かすやうな廉い錆びない鋼或は鐵の出來ますことを切に希望して止まないであります、是は若し今日吾々のジェネレーションに出來なければ、どうしても次のジェネレーションに於ても日本でやり遂げなければならぬと云ふことを常に痛感して居るのであります此處に幸ひに立つ機會を得ましたので一言駄辯を弄しまして所感を述べた次第であります(拍手)

○俄國一君 誰方がもう少し御話を御願ひすることが出來ませぬでせうか、どうか御遠慮なく願ひます—それでは別におありになりませぬし又段々時間が経ちますから是で遺憾ながら閉會と致します(拍手)

午後8時15分終了